

平成29年12月

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新規項目を登録いたしましたので、ご案内いたします。
弊社におきましてはご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので
今後共引き続きお引き立ての程お願い申し上げます。 敬白

***** 記 *****

■ 新規受託項目

項目コードNo.	23198
検査項目名	便中カルプロテクチン
検体量	糞便 1g
容器	専用容器
保存方法	凍結
検査方法	FEIA法
基準範囲	炎症性腸疾患の診断補助の指標：50 mg/kg 以下 潰瘍性大腸炎の病態把握の指標：300 mg/kg 以下
実施料	276点*
判断料	免疫学的検査 144点
所要日数	5~11日
備考	<p>* 算定留意事項</p> <p>ア カルプロテクチン（糞便）は、区分番号「D014」自己抗体検査の「27」抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）の所定点数に準じて算定できます。</p> <p>イ 本検査は、慢性的な炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）の診断補助を目的として、FEIA法により測定した場合に算定できます。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施して下さい。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。</p> <p>ウ 本検査は、潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、ELISA法又はFEIA法により測定した場合に、3月に1回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、病態把握を目的として、本検査を3月に2回以上行う場合（1月に1回に限る。）には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。</p> <p>エ 慢性的な炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）の診断補助又は潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、本検査及び区分番号「D313」大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。</p>

■ 開始期日

平成29年12月9日（土）受付分より

17-1225

便中カルプロテクチン

持続性の下痢や腹痛などの消化器症状を呈する症例では、潰瘍性大腸炎(UC)とクローン病(CD)などの炎症性腸疾患(IBD)と過敏性腸症候群(IBS)などの機能性腸疾患を鑑別しなければなりません。両疾患の鑑別には大腸内視鏡検査が必要です。さらに炎症性腸疾患は、症状のない寛解期と症状のある活動期を繰り返すため、腸管炎症度などの病態を大腸内視鏡検査により確認する必要があります。しかし、大腸内視鏡検査は侵襲的な検査であり、患者負担が大きいいため頻回に検査を行うことが困難です。

カルプロテクチンは、カルシウムおよび亜鉛結合タンパク質で、主に好中球の細胞質に存在し、細胞質内のタンパク質の6割を占めています。炎症性腸疾患では、好中球の管腔への移行に比例して、糞便中のカルプロテクチン濃度が上昇することが知られており、その濃度を測定することによって腸管炎症の状態を把握することが可能になります。便中カルプロテクチンはその安定性から、優れた腸管炎症マーカーであり、検査が非侵襲性であるために内視鏡検査と比べ患者への負担が少ないという特徴があります。また、再燃時にCRPと比べ腸管特異的に上昇することから、患者の病態をよりの確に把握することも可能です。

便中カルプロテクチンの測定は既に保険適用となっておりますが、本検査では適用が拡大(慢性的な炎症性腸疾患の診断補助)された新試薬を用いて検査委託を開始致します。

■ 検体採取容器

弊社では、便中カルプロテクチン測定用の便検体提出容器セットをご用意しておりますので、検体の採取および提出時にご利用下さい。

(検体採取容器に関してのご質問等は、弊社担当営業員までお願い致します。)

①採取容器



②採便シート



③提出時の収納袋



■ 検体採取方法

①便器の水相が隠れるように、採便シートを置いて下さい。

採便時に尿が混入しないよう、採便シートを置く前に排尿は済ませて下さい。

(採便シートは、5分程度は水に溶けず採便が可能です。長時間になると水に溶けるのでご注意ください。)

②敷いた採便シート上に排便して下さい。

③採取容器の蓋(裏側がザシ状になっている)で、シート上の便をすくい取って下さい。

採取量は小指の第一関節程度の大きさを採取して下さい。下痢便、水様便も同じくらいの体積(量)が必要です。また、月経期間中および痔ろうなど血液が混入した便でのご提出は控えて下さい。(使用後の採便シートは、そのまま水で流すことが可能です。)

④容器の蓋ですくい取った便をそのまま容器本体に入れて蓋をして下さい。

⑤糞便の入った採取容器を収納袋に入れ、チャックを閉めて下さい。

患者さんが自宅で採取する際は、病院へ提出されるまでの間、冷暗所にて保管して下さい。

(便採取は、通院の当日もしくは前日に行ってください。)

【採取手順】

①



②③



④



⑤



以上